

依知南小学校だより 7月号

# みなみ

発行所 厚木市立依知南小学校  
発行者 中川 洋太  
発行月 平成30年7月  
児童数 7月1日現在 504名

## ハフニングを次へ生かす

校長 中川 洋太

市内のほとんどの学校で行っていた「大山登山」は、時代の流れの中で縮小され、3年前までは一校もありませんでした。本校も『大山』ではなく『鎌倉』に行っていました。そのような中、依知中学校の「総合的な学習の時間」で『鎌倉』のことをテーマに学習するということが、当時の6年担任の耳に入りました。中学で『鎌倉』の学習をやるなら、小学校では別の内容にと『大山』をテーマに学習を進めることに変更しました。

学習を進めていくと「登ってみたい」という心情がわいてくるのは必然です。昔に比べて「山に登る」という経験のない子どもたちを連れて行くため、安全面をクリアできれば実施する事を認めることにしました。教職員の引率だけでは厳しいと考えた担任は、保護者や地域の方々に応援をお願いする事にしました。これが実に効果的でした。グループに一人の大人、また、分かれ道にも誘導係を配置することができるようになったのです。そして、参加していただける保護者や地域の方は年々増えています。先生にとっては「やりたかったことが実現できた」という思い、保護者にとっては「子どもと一緒に登れる」というような思いもあるのだろうと推測できます。

さて、今年の6年生の学習テーマも『大山』となり、大山に登ってきました。今年で3回目となりますが、私にとっては忘れられない「大山登山」となりました。なんと、私だけが頂上に到達できなかったのです。とんでもない事件が起きてしまったのです。

実は、毎年引率の責任者として登っている私にとっては、プレッシャーのかかるイベントです。安全面？いえ、体力的に心配なのです。そのため5月の連休に下見に行き、休日には何度も自宅近くの山や階段を上り下りしています。誰よりも練習を積んでいる自負がありました。そんな中で行われた今年の「大山登山」でハフニングが起きてしまったのです。なんと、本格的な登山がはじまる前に、登山靴の分厚い靴底がはがれてしまったのです。薄いプラスチックの底が靴に残っていたため「今日一日もってくれ」と願いながら登山を続行するも、その願いはあっけなく崩れ去り、すぐにプラスチックの底は割れてしまい靴下が露出する状態になってしまいました。「責任者として下山すべきか」「このまま登って歩けなくなったら自分が迷惑をかける」と様々なことが頭をよぎりました。文章では表せないくらい葛藤し、悩み続けました。そして、16合目。全員の子どもの表情、引率していただいている人たちの表情を見て「下山」を覚悟しました。これが、私だけが頂上に行けなかった「事件」の真相です。

話はこれで終わりませんでした。後日、山登りの得意な方からうかがったことですが「靴底がはがれるという事は想定内で、いつもワイヤーを持って行っている」との事です。「甘かった」「想定しておかなくてはいけなかった」と反省の念が膨み来年実施なら、次こそは…。



# 第1回学校運営協議会が開催されました

6月2日（土）に第1回の学校運営協議会が開催されました。今年で2年目となり、新しいメンバーを迎えて順調なスタートを切っています。学校スローガン「えがおで ちゃれんじ ゆめいっぱい みなみっこ」を再確認後、委嘱状交付の伝達や自己紹介、給食会食が行なわれました。会食後は校長より学校運営についての基本方針についての説明があり、その後各グループに分かれて副会長を選出し、具体的な協議がなされました。

## 〈知グループ〉

知グループではまず、今年度の学校運営（4本柱・努力点）の一つである知グループの具体的な取り組みについて確認をしました。

知グループでは『学び力の育成と確かな学力の向上』を目標に掲げて、全員がわかる授業、全員が参加し楽しい授業、新たな時代、新たな教育課程に対応できる授業の展開を目指すとともに、学校教育アンケートの分析を行っています。

昨年度、実施された学校教育アンケートの結果より『家庭学習の習慣化』の達成割合が低いことがわかり、「家庭でどのように声をかければよいかわからない」「何をさせればよいかわからない」という保護者の声もあがっていました。そこで本年度、家庭学習チャレンジカードを導入し、1学期と2学期に一週間ずつ家庭学習の実施状況をお子さん、保護者の方ともども確認し合える期間を設けました。学校運営協議会の委員のみなさんからも「こういう機会を子どもへの声掛けのよいチャンスにしたい」など取組に期待の声が上がっていました。次回はこの取組の成果について検討していく予定です。



## 〈徳グループ〉

徳グループでは、『豊かな心の育成と個を大切にされた教育』を目標に掲げて、全ての児童の居場所がある学校づくりや『命の授業』に対して、保護者や地域の方々と一緒に具体的に何かやれるかを考え、できることから実践していくことを確認しました。



昨年度、雨の日の休み時間の過ごし方の一つとして、ボランティアを募って、折り紙教室を実施しようという案が出されていました。そこで、梅雨時期に合わせて、早速、第1回目の「折り紙教室」を6月7日（木）のロング昼休みに設定し、実施に向けての細かい計画を立てました。

今後、この取組の継続についての計画や、ゲストティーチャーを迎えての授業についても意見交換をしていく予定です。

## 〈体・安・開グループ〉

体力向上にむけて、保護者や地域の方々の協力を仰ぎながらできることについて話し合いました。

・全校児童の体力の底上げとして特に持久力と握力が低いという結果から、目標を具体的に設定して、それに向けて朝の時間、休み時間や授業での取り組みについて地域の方々の力添えを仰ぎながらできることについて今後、検討していく児童の安心安全については

・昨年度も実施した地域とPTAとの協力で児童向けのAED研修を行う  
・青少年健全育成会とPTAとの協力で不審者から身を守る方法等の講習を行う  
開かれた学校については

・学校ホームページを利用して、学校運営協議会の各グループで話し合われた内容を随時公開して、保護者や地域の方々に関心をもってもらう  
・連絡メールを利用して保護者、地域と情報を共有して児童の安全確保に努め、地域の方々の意識を高める等の貴重なご意見をいただきました。  
具体的な取り組みについては今後、検討していくことが確認されました。



★学校ホームページにも学校運営協議会の様子がアップされていますので、是非そちらもご覧ください。